

「Z会の映像」 教材見本

こちらの見本は、実際のテキストから1回分を抜き出したものです。

ご受講いただいた際には、郵送にて、冊子をお届けします。

※実際の教材は、問題冊子と解説冊子に分かれています。

11章 近代I

要点

①イギリス産業革命

〔イギリスで産業革命が起こった背景〕

- 農業革命の進展

18世紀、中世以来の三圃制から**ノーフォーク農法**（大麦→クローヴァー→小麦→カブを4年周期で輪作する農法）に移行し、穀物の生産力が増大した。

- 労働者の形成

第2次囲い込み（エンクロージャー；18世紀～19世紀初め）の進展により、資本主義的大農場経営が発展。

→**独立自営農民**（ヨーマン）が没落し、職を求めて都市に流入し、賃金労働者となっていた。

- 18世紀の商工業の発展

17世紀のピューリタン革命・名誉革命を経て、独占や特権が廃止され、経済活動の自由が保証されていた。

- 資本の蓄積

商工業の発展に加え、イギリス・西アフリカ・西インド諸島をつなぐ**大西洋三角貿易**で**黒人奴隷**を商品として多大な利益を得た（17～18世紀）。

七年戦争によって広大な植民地を獲得し、大西洋の商業覇権をにぎるとともに**海外市場**を確保していたことも大きい。

- 豊富な地下資源…鉄や石炭

- **科学革命**による科学技術の発達

〔産業革命の展開〕

●木綿工業の発達

三角貿易で西アフリカの黒人奴隷と交換する商品として綿布が用いられる
 奴隷貿易港リヴァプールの後背地のマンチェスターで木綿工業発達

●ジョン＝ケイが飛び杼を發明（1733）

→綿布を織る工程の速度が倍加し、糸不足となる

●ハーグリーブズがジェニー（多軸）紡績機を發明（1764 頃）

●アークライトが水力紡績機を發明（1768）

蒸気機関を動力とし、連続作業が可能となる。

→工場制大量生産へと移行

●クロプトンがミュール紡績機を發明（1779）

→紡績機の改良により糸が余り始める

●カートライトが蒸気機関を動力とした力織機を發明（1785）

●合衆国のホイットニーが綿繰り機を發明（1793）

イギリスに原綿を供給。アメリカ南部の綿花栽培が増大した。

▼困い込み運動の比較

重商主義政策→毛織物業育成



第1次困い込み	
時代	15世紀末～17世紀半ば
目的	牧羊地の拡大
推進方法	ジェントリ層が非合法に推進
特色	小規模。トマス＝モアが『ユートピア』で風刺。
規模	イングランドの全耕作地の2～3%
影響	ジェントリ層の台頭。毛織物業の発展。 (→市民革命へ)



農業革命→資本主義的農業



第2次困い込み	
時代	18～19世紀初め
目的	農業の大規模経営（ノーフォーク農業）。食料増産。
推進方法	議会立法で合法的に推進
特色	今日のイギリス農業の特色 大規模経営の形成
規模	イングランドの全耕作地の約20%
影響	農民層の階層分化。小作人は都市に流入し労働者に。 (→プロレタリアートへの転化・産業革命へ)

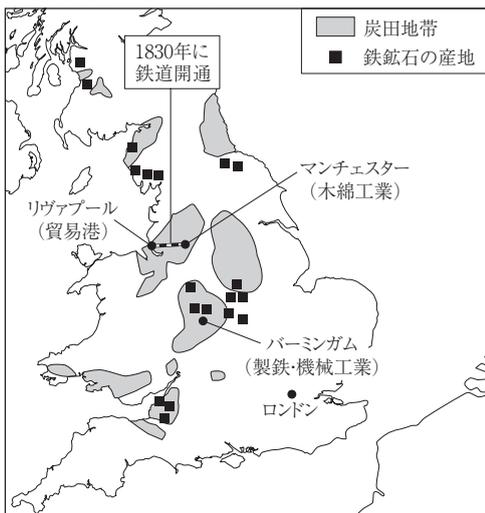
〔蒸気機関の発達〕

- ニューコメンが蒸気力による炭鉱の排水用ポンプを実用化（1712）
- ワットが蒸気機関を発明（1769）
- 紡績・織布・動力の諸部門の発達により木綿工業が繁栄し、**機械工業**や**鉄工業**といった重工業部門の技術革新、石炭の採掘などを促す。
- ダービー父子による**コークス製鉄法**の発明
 - 木炭から石炭・コークスに燃料が変化（エネルギー革命）し、**石炭業**が発達。
 - 鉄の大量生産が可能となる。

〔交通革命〕

- 大量の物資を運搬するため、**道路**の舗装が盛んとなる。
- 運河**の建設→船舶の発達
 - アメリカ人フルトンが**蒸気船**でハドソン川を遡行（1807）
- 鉄道**の発達
 - 蒸気機関車**…トレヴィシックが発明し、**スティーヴンソン**が実用化
 - 1825年、**ストックトン・ダーリントン**間を運行（ロコモーション号）
 - 1830年、**リヴァプール・マンチェスター**間に**実用鉄道**が開通（ロケット号）
 - その後、1830年合衆国、32年フランス、35年ドイツ・ベルギー、38年ロシア、39年オランダ・イタリアで開通。

▼産業革命期のイギリス



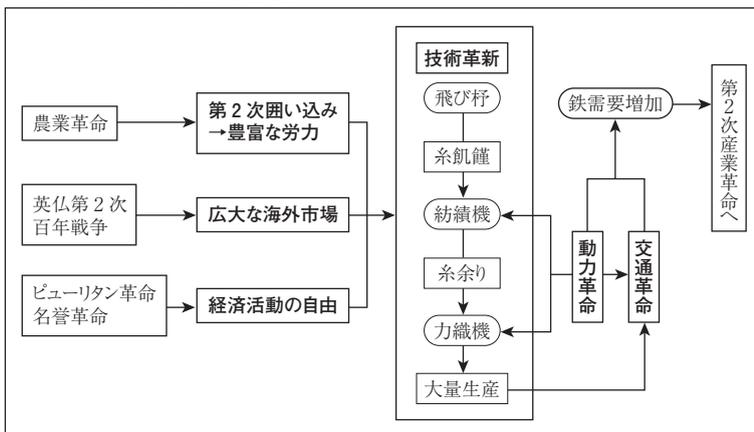
〔資本主義の確立〕

- 産業革命による大規模な**機械制工場**の出現
 - 家内工業や手工業の没落
 - **産業資本家**が経済の中心的地位を占める**資本主義体制**が確立
- 社会的階層が**資本家**と**労働者階級**（プロレタリアート）に分化，対立
- **労働問題**や**社会問題**の発生
 - 低賃金での**女性・子どもの労働**
 - 「聖月曜日」をめぐる問題，**団結禁止法**の制定
 - 工場労働者の労働条件を定めた**工場法**が制定される
- 工業都市の出現…**リヴァプール・マンチェスター・バーミンガム**など
 - **人口の都市集中**により都市問題が発生
- **ラダイト運動**（1811～17）
 - イギリス中・北部で発生した，労働者による**機械打ちこわし運動**

〔イギリス古典派経済学の誕生〕

- **アダム＝スミス**
 - 『諸国民の富（国富論）』で**自由貿易論**を主張
 - イギリス古典派経済学**（自由主義経済学）の基礎を築く
 - **マルサス**…『人口論』
 - **リカード**
 - 自由貿易論を主張，イギリス古典派経済学を大成
- ※イギリス自由貿易論に対し，ドイツの**リスト**に代表されるように後進資本主義国では**保護関税論**が強かった。

▼イギリス産業革命の構造



②産業革命の波及

〔イギリスの繁栄〕

● “世界の工場” “パックス = ブリタニカ”

19世紀にはナポレオンを打倒してヨーロッパ大陸をその市場とし、また広大な海外植民地も獲得したことから“日の沈まぬ帝国”と呼ばれた。

→イギリスを中心とするヨーロッパ勢力による**世界の一体化**が進行

〔フランス〕

- フランス革命により小土地農民が急増
- 労働力と資本蓄積が不十分だった
- 1830年代の七月王政期から絹工業・木綿工業などの軽工業を中心に産業革命が進展した。

〔ベルギー〕

- 鉄・石炭などの資源に恵まれ、1830年の独立前後から産業革命が進展。

〔ドイツ〕

- ドイツ関税同盟（1834年発足）以降経済的に統一され、1840年代頃からラインラントを中心として産業革命が本格化
- 普仏戦争（1870～71）の勝利でアルザス・ロレーヌ地方を獲得し、**重工業・化学工業**が発達した。

〔合衆国〕

- **ホイットニー**が**綿織り機**を発明（1793）
- 米英戦争（1812～14）での経済的独立を機に、1840年頃から木綿工業を軸として金属機械工業が発展した。
- 南北戦争（1861～65）の後に工業化が進展し、19世紀後半には**重工業・化学工業**が発達した。

〔ロシア〕

- **アレクサンドル2世**が発布した**農奴解放令**（1861）以後、フランス・ドイツの資本と技術の導入で徐々に産業革命が進展した。
- 1890年代に重工業部門が急速に発達した。

〔日本〕

- 明治維新後の19世紀末頃から本格化

③社会主義思想の成立

- 産業革命によって労働問題・社会問題が深刻化する中で、資本主義体制の変革または廃止によって貧困や社会問題を解決しようとする**社会主義思想**が生まれた。

〔空想的社会主義〕

- マルクス・エンゲルス以前の社会主義思想の総称。エンゲルスが命名。
- ロバート＝オーウェン**
スコットランドのニューラナークで紡績工場を経営する立場から、労働者の待遇改善に努め、**工場法**の制定や労働組合・協同組合の育成に尽力した。1820年代には合衆国で理想的な協同社会であるニューハーモニー村を建設したが、失敗に終わった。
- サン＝シモン**
フランスの社会主義者。労働者による理想的産業社会の建設をめざした。アメリカ独立戦争に義勇兵として参加した。
- フーリエ**
フランスの社会主義者。協同組合的理想社会（ファランジュ）の実現をめざした。
- ブルードン**
フランスの社会主義者。「財産、それは窃盗である」と述べ、労働に基づかない私有財産を批判した。また、国家・政府などの権力を否定する**無政府主義**（アナーキズム）を主張した。
- ルイ＝ブラン**
フランスの社会主義者。国家の援助による生産労働の組織化を主張した。二月革命の際には臨時政府に参加し、労働代表委員会（リュクサンブール委員会）の委員長として**国立作業場**を設立したが、失敗に終わった。

〔科学的社会主義〕

- マルクス・エンゲルスは、唯物史観に基づいて資本主義の仕組みを分析し、社会主義への移行を“科学的”に考察したとして、自らの思想を“科学的社会主義”と称した。
- マルクス**
ドイツ生まれのユダヤ系社会主義者。資本主義社会から社会主義社会への移行は歴史の必然であるとし、万国の労働者が団結して革命によって社会主義を実現するように説き、以後の社会主義運動に大きな影響を与えた。
→1848年には友人エンゲルスとの共著『共産党宣言』を発表した。「万国の労働者よ、団結せよ」という言葉で有名。

問題

【1】

《イギリス産業革命 I》★★

次の文を読み、下記の問いに答えよ。

18世紀の後半にイギリスでは産業技術や生産組織の上で急激な変化が生じた。いわゆる産業革命である。この時代の人々の最大必需品の一つである繊維工業部門を例にみると、この時期に多くの機械が発明され、「革命」が起きてきていることがわかる。18世紀初期には、すべての織物業における製造工程は遅く、手間のかかるものであった。しかし、1733年にジョン＝ケイが発明した飛び梭は補助者なしに幅広布を織ることを可能としたため、織布工程全体が大幅にスピードアップされることとなった。ところが、この機械が織布工程をスピードアップさせたことは紡績糸の生産の不足をもたらした。そのことが、(イ)やがて多くの紡績機械の発明をうながすことになり、ついに大規模工場産業がはじまり、産業革命が本格化するのである。

ところで、イギリスで世界最初の産業革命が始まったのは、それなりの条件が整っていたことによる。つまり、イギリスではニュートン以来の自然科学の発達がみられたばかりか、これを工業技術として応用するための条件が整っていたのである。

イギリスは1652年から1674年にいたる（A）との海上権をめぐる戦いや18世紀前半の（B）との植民地争奪の戦争に勝利した。その結果、18世紀半ば過ぎまでには、東西両洋にわたって海上権を掌握し、世界商業と植民地支配の覇権をにぎったため、広大な海外の原料供給地および市場を独占する地位を築き、同時にさかんな海外貿易による資本の蓄積も進んだ。また、イギリスでは、16世紀以来、農村毛織物工業などでマニュファクチュアが発達し、大きな職場で多数の労働者が分業で生産を行っていたため、ここに機械が用いられるならば、さらに飛躍的な生産力の向上がはたされうる下地があった。他方、農業では、16世紀に続いて、18世紀には（C）のための第2次囲い込み運動が起こり、農業技術が改善されたことから農村の人手が少なくてすむようになり、あまった労働力が都市に流入して工業のための豊富な労働力の発生源となった。さらに、(ロ)イギリス革命によって、資本主義の発展を妨げていた種々の独占や特権を廃止してきたことも、イギリスの産業の自由な発展にとっては大きな意味があった。また、イギリス国内に産業の発展に不可欠な鉄鉱や石炭が豊富に埋蔵されていたことも大きな要因として考えられる。

問1. (1) 下線(イ)で述べられているように、この時期イギリスで多くの紡績機械が発明されている。以下の語群Aはこの時期にイギリスで発明された紡績機械であるが、それぞれに最も関係の深い人名を語群Bから選び、その記号を記せ。

[語群A] ①ジェニー紡績機 ②ミュール紡績機 ③水力紡績機

[語群B] a. エリアス＝ホイットニー b. サミュエル＝クロンプトン
c. ジェームズ＝ハーグリーブズ d. リチャード＝アークライト
e. エドマンド＝カートライト

(2) 以下は、上記語群Aの紡績機を発明された年代順に並べたものである。正しい順番に並べたものの記号を記せ。

- a. ①-②-③ b. ①-③-② c. ②-①-③ d. ③-②-①
e. ③-①-②

問2. 次のa～eの説明文のうち、文中の（ A ）および（ B ）の国を説明した文をそれぞれ一つ選び、その記号を記せ。

- a. ジェノヴァの人コロンブスは、この国の女王の援助を受けて1492年に大西洋横断の航海に発つて以来4回にわたる航海でアメリカ大陸にまで達している。また、この国の王の命を受けたマゼランは1519年に西方への航海に発ち、南アメリカの南端を経て太平洋を横断した。
- b. この国は、インドのゴアに総督府をおいてセイロン、ジャワ、マラッカなどを占領し、マカオの居住権をも中国から得た。その後、1543年にはこの国の人々は日本にも来航した。
- c. この国では、ここを領有していたフェリペ2世の圧政に対し、1568年以来、独立戦争が起こり、ついに1648年のウェストファリア条約によって、正式にその独立が列国から承認された。
- d. この国の貴族出身のリシュリューは、1624年から1642年まで宰相をつとめ、大貴族を抑え、ユグノーの政治力をくじき、地方長官制をはじめとする官僚行政機構を整え、王権の絶対化に努めた。そして、対外的には、ハプスブルク家に対抗して三十年戦争に突入した。
- e. イギリスの植民地であったこの国では、1775年にレキシントンで生じた武力衝突をきっかけに独立戦争が起こった。そして、翌1776年には、ロックの思想的影響を受けて、人間の自然権を承認した有名な独立宣言が発表された。そして、ついに1783年のパリ条約によって独立が承認された。

問3. 文中の（ C ）に最もよくあてはまる語句をつぎの中から一つ選び、その記号を記せ。

- a. 穀物生産 b. 羊毛生産 c. 農奴解放 d. 農村の民主化
e. 区画整理

問4. 文中の下線(口)は正しい語句といえるか。正しい語句であればfを記せ。正しくないとなれば、つぎの語句の中から正しいと思われるものを一つ選び、その記号を記せ。

- a. チャーティスト運動 b. 審査法の廃止 c. 工場法の成立
d. ラダイト運動 e. マグナ＝カルタ

(法政大法【1】一部改・1992年)

【2】

《イギリス産業革命Ⅱ》★★

イギリスにおける産業革命の展開をめぐる次の文章を読んで、以下の問1～9に各問の指示に従って解答しなさい。解答はすべて番号で記しなさい。

産業革命が順調に展開するための経済的条件としては、(A)資本の蓄積、(B)市場の発達、(C)豊富な労働力の3つをあげることができる。イギリスでは、これらの条件が他国に比べてきわめて順調に整えられたため、18世紀後半以降、世界で最初の産業革命が起こった。イギリスの産業革命は(D)生産技術の変革に始まり、(E)木綿工業から(F)機械工業、製鉄業、石炭業へと広がっていった。これらの産業部門での飛躍的な生産性の増大は、(G)交通革命と呼ばれる交通手段の進歩によって促進され、19世紀の中頃までには「世界の工場」としてのイギリスの地位が確立された。

問1. 下線部(A)について述べた次の1～4から、誤りを含むものを1つ選びなさい。

1. イギリスでは16世紀以来、農村を中心として展開した毛織物工業において、豊富な資本が蓄積されていた。
2. 市民革命後のイギリスでは、独占や特権を基礎にした問屋制やマニュファクチュアを中心として資本の蓄積が行われた。
3. イギリスでは海外の植民地から流れ込む大量の利潤が豊富な資本として蓄積されていたが、七年戦争での勝利は、こうした蓄積の基盤を確固たるものにした。
4. 産業革命開始期のイギリスでは、大農経営にもとづいて市場向けの生産を行う資本家的な借地農業者が数多くあらわれ、農業における資本主義化が進展していた。

問2. 下線部(B)について述べた次の1～4から、誤りを含むものを1つ選びなさい。

1. 新農法の導入による農業生産力の上昇は人口の著しい増加を可能とし、すでに産業革命以前に、人口増加による大衆的な消費市場が生まれていた。
2. イギリスは、ブラッシーの戦いでフランスとインド土侯の連合軍を破ってインド支配の基礎を築き、広大なインド市場を手に入れた。
3. 産業革命の開始に先立ち、東インド会社の貿易独占権が廃止されていたことが、イギリスの海外市場を巨大なものにした一因である。
4. クロムウェルが1651年に発した航海条例以降、イギリスの北米植民地は、本国に対する第一次産品の供給地および本国製品の販売市場となっていた。

問3. 下線部(C)について述べた次の1～4から、誤りを含むものを1つ選びなさい。

1. 議会主導のもとに推進された第2次囲い込み運動の結果、土地を失った農民が都市に流入し、工業に豊富な労働力を供給することになった。
2. 第2次囲い込み運動により、産業革命が始まる前に独立自営農民が消滅していたことが、イギリスの産業革命を順調なものにした一因であった。
3. 産業革命が始まると、それまでのマニュファクチュアは衰退し、多くの手工業者が没落して、工場労働者となった。
4. イギリスの支配の下で貧困化した多くのアイルランド農民がイギリスに流入し、重要な労働力源となった。

問4. 下線部(D)に関連する蒸気機関の発達について、次の1～4から誤りを含むものを1つ選びなさい。

1. 蒸気力を利用したポンプは、すでに18世紀初めにニューコメンによって発明され、主として鉱山の排水用に用いられていた。
2. ニューコメンの機関に大きな改良を加えて、蒸気機関を産業一般の動力として利用できる道をひらいたのはワットの功績である。
3. ワットの改良の意義は、シリンダーと冷却装置を分離して機関の熱効率を飛躍的に高めるとともに、ピストンの上下運動を回転運動に変えることに成功した点にある。
4. 従来の水力紡績機に代えて、蒸気機関を紡績機械の動力としてはじめて実用化したのはカートライトである。

問5. 下線部(E)について述べた次の1～4から、誤りを含むものを1つ選びなさい。

1. 産業革命以前のイギリスの主要な繊維工業は毛織物工業であり、綿製品については、キャラコと呼ばれる綿布をインドから輸入していた。
2. 18世紀末には、イギリス産の綿布は西インドに送られて奴隷の購入にあてられ、西インドの奴隷が北米植民地に送られて本国向けの綿花と交換されるという、新しい三角貿易が生まれることになった。
3. 木綿工業の技術革新は1733年、ケイによる飛び杼の発明に始まり、18世紀後半をつうじて紡績と綿布との両面にわたって進行した。
4. 木綿工業から産業革命が始まった理由としては、ヨーロッパ諸国や植民地における需要の増大、新興産業としての利点とならび、木綿の材質が技術革新に適していたこともあげられる。

問6. 下線部(E)について、イギリスは木綿工業の原料となる綿花をどこから輸入していたか。次の1～4から、原綿の輸入先として誤っているものを1つ選びなさい。

1. 北米大陸
2. 西インド諸島
3. インド
4. 中国

問7. 下線部(E)に関連して、その後のイギリス綿織物工業の輸出先は1820年頃から1860年頃にかけて大きく変化した。次の1～4から、その主な輸出先の変化として正しいものを1つ選びなさい。

1. インドからヨーロッパへ
2. ヨーロッパからインドへ
3. ヨーロッパからアメリカ合衆国へ
4. アメリカ合衆国からインドへ

問8. 下線部(F)について述べた次の1～4から、誤りを含むものを1つ選びなさい。

1. 木綿工業における機械の使用が旋盤その他の工作機械の発達を促し、金属・機械工業を発展させることになった。
2. イギリス中部に位置するバーミンガムは、金属・機械工業の中心地となった。
3. もともと豊富な石炭資源にめぐまれていたことが、蒸気機関の燃料としての石炭需要にこたえる一方、コークスの使用による溶鉱炉や精錬技術の発達を促進することになった。
4. 機械の利用が拡大するにつれて、不熟練労働者たちの激しい反発が生まれ、18世紀の終わりにはラダイト運動が起こった。

問9. 下線部(G)について、蒸気機関車の実用化にはじめて成功したのはだれか、次の1～4から1つ選びなさい。

1. スティーヴンソン
2. トレヴィシック
3. アークライト
4. フルトン

(慶應大経社 I 【2】・1994年)

【3】

《イギリス産業革命Ⅲ》★★

次の文中の□に最も適当な語を語群から選び、また下線部に関する問いに答えなさい。

イギリスは、17世紀には①オランダ、18世紀には②フランスとの戦いに勝利して広大な海外植民地を獲得した。海外市場に販路を得たイギリスは、まず木綿工業で大きな生産力の拡大を果たした。木綿工業は、綿花を糸状に紡ぎ、次に綿糸を織って綿布にすることで成り立っている。紡績機の発明のほかにも、1733年のジョン＝ケイによる飛び杼^ひなどの発明により、③織布の生産性が大幅に向上し、綿糸の不足をまねくほどだった。

これらの作業機械の発明に加えて、動力機械の改善もめざましかった。鉱山内部での④排水には蒸気が用いられていたが、1769年にワットが蒸気によってピストンを往復運動させ、それを回転運動に変える蒸気機関を改良した。この力を利用する織機の開発も促され、蒸気による動力は⑤石炭業・鉄工業にも応用された。1825年、スティーヴンソンは蒸気機関車を実用化させ、□イとダーリントンの間が鉄道で結ばれた。こうして、生産力をめざましく向上させたイギリスは「世界の工場」と呼ばれるようになった。

一方で、工場の機械化は伝統的な手工業の担い手にとって大きな脅威となり、機械を打ち壊す□ロ運動が発生した。さらに、炭鉱での児童による長時間労働など、産業化の初期には⑥悲惨な労働環境が多く見られ、大きな社会問題となった。労働者の待遇を改善するために友愛の精神をうたう人たちもいたが、それを「空想的社会主義」と批判して、「科学的社会主義」ととなえたのが⑦マルクスであった。イギリスでは19世紀前半には労働者の団結は禁止されていたが、国民の自由化・民主化を求める声は強く、労働者たちは徐々に⑧参政権や団結権を獲得していった。

[語群]

- イ a. マンチェスター b. ストックトン c. バーミンガム d. リヴァプール
ロ a. チャーティス b. ナロードニキ c. ラダイト d. ウラービー

[問い]

- ① オランダ（ネーデルラント）に関する記述として、誤りを含むものはどれか。
a. アムステルダムは、ネーデルラント連邦共和国の経済・政治の中心地となった。
b. ジャワに東インド総督を置き、東アジア進出の拠点とした。
c. ウェストファリア条約で独立の国際的承認を得た。
d. オランダ東インド会社は、18世紀前半に解散した。

- ② イギリスとフランスの海外植民地をめぐる戦いに関する記述として、誤りを含むものはどれか。
- a. イギリス東インド会社の傭兵軍は、プラッシーでフランスや地方政権連合軍に勝利した。
 - b. プラッシーの戦いで敗北したフランスは、インド植民地から完全撤退した。
 - c. 七年戦争の際、北アメリカではフレンチ＝インディアン戦争が戦われた。
 - d. 1763年のパリ条約により、フランスはミシシッピ川以東のルイジアナをイギリスに割譲した。
- ③ 織布の生産性を向上させた力織機の発明者はどれか。
- a. カートライト
 - b. ハーグリーブズ
 - c. アークライト
 - d. クロンプトン
- ④ 排水用蒸気ポンプの発明者はどれか。
- a. フルトン
 - b. ニューコメン
 - c. トレヴィシック
 - d. ホイットニー
- ⑤ 石炭業や鉄工業に関する記述として、誤りを含むものはどれか。
- a. 石炭は、鉄の精錬や蒸気機関の燃料として必要とされた。
 - b. イギリスでは石炭は産出されず、フランスからの輸入に依存した。
 - c. ダービー父子によってコークス製鉄法が開発された。
 - d. 鉄道建設は、製鉄など重工業の発展を促進した。
- ⑥ イギリスにおける悲惨な労働環境の改善に関する記述として、誤りを含むものはどれか。
- a. ロバート＝オーウェンはスコットランドのニューラナークに工場村を創設した。
 - b. 1833年の一般工場法により、工場監督官制度が導入された。
 - c. 1844年の工場法では、12歳以下の児童労働が完全禁止された。
 - d. 1871年の労働組合法で、労働組合の法的地位が定められた。
- ⑦ マルクスに関する記述として、誤りを含むものはどれか。
- a. エンゲルスとともに『共産党宣言』を発表した。
 - b. 第1インターナショナルの結成には加わらなかった。
 - c. 弁証法哲学の影響を受けて史的唯物論をとらえた。
 - d. 階級闘争の結果、労働者階級による支配が実現するとした。
- ⑧ イギリスの参政権に関する記述として、誤りを含むものはどれか。
- a. 第1回選挙法改正（1832年）によって腐敗選挙区が廃止された。
 - b. 労働者たちは人民憲章において男性普通選挙を求めた。
 - c. 第2回選挙法改正（1867年）によって都市の労働者に選挙権が与えられた。
 - d. 第4回選挙法改正（1918年）では男性のみの普通選挙が実現した。

11章 近代I

問題

【1】

解答

問1 (1) ① c ② b ③ d (2) b 問2 A c B d 問3 a
問4 f

解説

イギリスにおいて産業革命が世界に先がけて起こったその原因と経過が、テーマとなっている問題である。問題文をよく読んで、なぜ世界で最初に産業革命が起こった国がイギリスだったのか、その条件をとらえること。

問1 産業革命期にイギリスで発明された紡績機械について、実際の入試ではこの程度のレベルまで問われるという実例である。その主要なものについては、発明者と、それまでに発明された機械との相違点・改良点をまとめておく必要がある。その際、「ジョン＝ケイの飛び杼の発明による糸不足を解消するために、ハーグリーブズがジェニー（多軸）紡績機を発明した」といった発明機械間相互の関連性も押さえておきたい。流れを把握しておくことは、(2)の年代整序問題にも対応できる実力となるのだ。

問2 a～eの5つの説明文を吟味する前に、まず本文のAとBにあてはまる国名を確定しておこう。このイギリスと覇権を争った2国についてだが、その年代に注目したい。イギリスは17世紀後半にオランダと海上覇権を争いこれに勝利し、さらに18世紀にはフランスと北米やインドで植民地獲得競争を行っている。よってAにはオランダが、Bにはフランスが当てはまる。これは、問題文にある「1652年から1674年」が3度にわたる英蘭戦争（イギリス＝オランダ戦争）が展開されていた時期をさしていることから、その正しさを裏付けることができる。

さて、空欄に当てはまる国名が判明したところで、次に説明文a～eの文がそれぞれの国をさしているのかを考察しよう。

a コロンブスの航海を援助したのはスペイン女王イサベルであるから、aはスペインである。

b この説明文のキーワードは「インドのゴアに総督府」を設置、「マカオの居住権」を獲得、そして「1543年には…日本にも来航した」といった点であろう。ここからポルトガルをさすことは明らかである。ポルトガルはマカオの居住権を1557年に中国の明朝より獲得したが、正式に領土としたのは1887年のことである。マカオは1999年末に中国に返還された。

c スペイン王「フェリペ2世の圧政」に対して「1568年」に「独立戦争」を起し、「1648年のウェストファリア条約」で各国からその独立を承認されたのはオランダである。よって、Aのオランダを説明しているのはこのcとなる。

d 「リシュリユー」が宰相として政治力を発揮したのはルイ13世の時代のフランスである。よって、Bのフランスを説明しているのはこのdとなる。

e 「1775年」の「レキシントン」の戦いを契機として、イギリスとの間で「独立戦争」(～1783)を起こし、これを勝ち取ったのは合衆国である。

問3 この問題では18世紀に起こった第2次囲い込み運動における対象が何であるかが問われている。第2次囲い込みの目的は、市場向けの「穀物生産」だったので、aが正答となる。間違えやすいのがbの「羊毛生産」であるが、これは16世紀頃に行われた第1次囲い込みの目的であった。当時のイギリスの工業製品は毛織物が主流であったからである。その後、東インド会社の輸入品であるインド産綿織物の需要が増え、イギリスでも綿織物が生産されるようになったが、その効率化をはかって一連の産業革命が起こったのである。この結果、イギリス工業生産の中心は毛織物から綿織物へと変化し、インドでの綿織物を中心とする手工業は大打撃を受け、単なる原綿の供給地とイギリス製品の市場になってしまう。

問4 「資本主義の発展を妨げていた種々の独占や特権を廃止」した出来事とは何か、考えればよい。ここでいう「種々の独占や特権」とは絶対王政の時代に王が一部の特権商人に独占権を与えていたことをさすので、絶対王政が覆った事件、すなわち「イギリス革命」が正答となる。

【2】

解答

問1 2 問2 3 問3 2 問4 4 問5 2 問6 4 問7 2
問8 4 問9 1

解説

産業革命というテーマが世界経済史上で持つ意義は大きく、とくに経済学部志望の学生にはしっかりと押さえておいてもらいたい。今回の問題は慶應大学の経済学部からの出題であり、正誤判定ではかなり踏み込んだ内容まで問われている。経済学部だけでなく、同大学の志望者はしっかりと復習しておくこと。

問1 「問屋制やマニュファクチュアを中心として資本の蓄積が行われた」のは事実であるが、17世紀半ば以降の市民革命により、ギルドなどの様々な規制は緩められていたので、「独占や特権を基礎」にしていたとはいえない。

問2 「産業革命の開始に先立ち」が誤り。産業革命→台頭した産業資本家の自由貿易への要求→東インド会社のインド貿易独占権廃止が決定(1813年、実施は14年)の順である。これに続き、1833年には東インド会社の商業活動がすべて停止された(実施は34年)。この結果同会社は貿易会社から変質し、インドにおけるイギリスの統治機関となった。

問3 やや難。確かに独立自営農民(ヨーマン)は第2次囲い込みによって没落したが、「産業革命が始まる前に～消滅していた」とはいいがたい。ヨーマンの消滅は18世紀末頃のことである。

問4 紡績機械で初めて蒸気機関を取り入れたのはアークライトの水力紡績機であるから、4は誤りとなる。なお、カートライトは蒸気機関を利用する力織機を考案した人物である。

問5 17世紀～18世紀の大西洋三角貿易は、西欧の武器・雑貨を西アフリカへ、西アフリカの黒人奴隷を西インドへ、西インドの砂糖などを西欧へと運ぶというものであった。

問6 18世紀、ティータイムが一般化していたイギリスは、中国から茶を輸入していた。しかしこれに対する中国向け輸出商品がイギリスにはなく、銀は一方的に中国へと流れていた。この流れを止めるべくイギリスが考え出した方法が、インド産のアヘンを中国へと運ぶ三角貿易であった。これは、イギリス産の綿製品をインドへ運び、インド産アヘンを中国へ運び、中国の茶をイギリスへ運ぶ貿易形態である。アヘンの害毒は中国人民を蝕み、銀の流出とともにその道徳的問題は清朝の大きな課題となった。この結果として起こったのがアヘン戦争(1840～42)である。

問7 インドは元来綿製品をイギリスに輸出していたが、イギリスで産業革命が進展した結果、イギリス綿織物の市場と綿花供給地になってしまった。

問8 機械の発展は作業の効率化を促す反面、労働者や技術力をそれまでほど必要としなくなるため、労働者数の削減を進める一面を持った。機械の利用が拡大するにつれて、失業の恐れが大きくなった手工業者や労働者が起こしたのが機械打ち壊し(ラダイト、ラッドイト)運動である。よって「不熟練労働者」という語は不適當である。

問9 最初に蒸気機関車を考案したのはトレヴィシックであったが、初めてこれを実用化し、ストックトン・ダーリントン間で鉄道を走らせたのはステイーヴンソンである。因みにアークライトは1768年に水力紡績機を発明した人物であり、フルトンは1807年に蒸気船クラーメント号でハドソン川の遡行を成し遂げた人物である。

【3】

解答

イ b ロ c

① d ② b ③ a ④ b ⑤ b ⑥ c ⑦ b ⑧ d

解説

産業革命に関する問題。正誤判定問題には細かい事項も含まれているが、このテーマを理解するには必要な内容なので、これを機に覚えておこう。

イ スティーヴンソンが改良を加えた蒸気機関車は、1825年にストックトン・ダーリントン間での試験走行に成功し、実用化への道を開いた。1830年にはマンチェスター・リヴァプール間で最初の営業運転が開始された。

ロ 機械化で職を失った職人たちによって、ラダイト運動と呼ばれる機械打ち壊し運動がイングランド中・北部を中心に展開されたが、1810年代をピークとして衰えた。

① オランダ東インド会社は、フランス軍に本国が圧迫されたことと、植民地経営の悪化によって1799年に解散した。

② プラッシーの戦いにフランスは敗北し、インドの支配権をイギリスに奪われたものの、拠点としていたボンディシェリ・シャンデルナゴルは引き続き領有し、1954年にインドに返還した。

- ③ 力織機はカートライトによって発明された。bのハーグリーブズはジェニー紡績機，cのアークライトは水力紡績機，dのクロプトンはミュール紡績機を発明した人物である。
- ④ ニューコメンは蒸気機関を炭鉱の排水ポンプの動力として実用化した。aのフルトンは蒸気船，cのトレヴィシックは蒸気機関車（性能が低く実用化には至らなかった），dのホイットニーは綿織り機の発明者である。
- ⑤ 鉄・石炭などの資源を豊富に有していたことも，イギリスで産業革命が最初に起こった理由の1つとされている。ダービーがコークス製鉄法を開発したことにより，すでに枯渇していた木炭から，大量に供給可能な石炭へと工業用の燃料が転換した。
- ⑥ やや細かい。1844年の工場法では，8～12歳の6時間半，女性の12時間労働が規定された。
- ⑦ 第1インターナショナルは1864年にロンドンで結成された，世界初の労働者による国際的な連帯組織である。創立宣言と規約はマルクスが起草した。
- ⑧ 第一次世界大戦中，総力戦の中で女性の社会進出が進んだことを受けて，第4回選挙法改正（1918）では成年男性と30歳以上の女性に選挙権が拡大された。